

感動の実話



クララが

宇部市・小野のヤギさん
20日のリハビリ乗り越え

立ったよ

「立った」

「クララが立った！」

という「アルプスの少女ハイジ」の名台詞が、宇部市小野でヤギを休耕田で飼育する、安藤公門（あんどう・きみと）さんから送られてきたので急行しました。

野太い鶯の鳴き声の森の下で、「クララ」は立っておいりました。たくま
しや。

安藤さんは語る

「あれからリハビリ頑張ったんよね、この子。脚を持って抱きかかえて、一歩ずつゆつくりと毎日毎日。そしたらあれから約20日でこれ」

クララよ、これからもすすく育ってね
安藤さんはレタスを持って、次の場所へ

クロ「もしやもしや、レタスうまいのお」

シロー「そうじゃのお、もしやもしや」

彼らの食事の様子を満足げに眺めつつ、安

藤さんが、

「この近くにゴルフ場があるんよ。そこに、ヤギが二頭クラブハウスにまでいったことがあつて……」

「えっ、どうなったんですか？」（てんち）

「事務員さんが、『あら珍しいお客さん、何名様ですか？』ときいて、一頭が、『メー、メー』と二回鳴いて、『ああ、二メー（名）様で』となつたとか」

「うそだー（笑）（てんち）」

「作りましたー。でも問いはされたそうですよ。おもしろいでしょ？」

クララより貧弱な足腰のてんちくんは、夜の小野ほたる祭りを見ることなく、足腰おさえてひいら帰宅の途。途中喫煙所でたばこに火を点け「こりやわしがホタルじゃ」といったとかいわなかったとか

□ □ □

おはようございます、こんにちわは、こんばんは。天地成行です。それでは、みんなつど47号まいります。二面は45号と46号の感想です。



鹿児島市・ラグーナ出版編集部（深水）

◆表紙

まず、目に留まったのは、やはりヤギの画像。立派な角が生えて、毛並みが整っている。

ヤギがその角をぶつけ合うとあるが、その様子を見てみたいと思っただ。約十頭いるヤギの中で、「タロウ」という雄ヤギが群れに馴染んでいないとあるが、私も集団の中に溶け込むのが苦手な方なので、「タロウ」に共感する思いである。

◆2面

私はアスパラガスが好物なので、たくさんのアスパラガスの画像を見て、思わず、サラダやベーコンと一緒に炒めるイメージが湧いた。茹でて、マヨネーズにつけて食べると美味しいだろうと思うし、炒め物はブラック・

ペッパーをかけてると味が増すかもしれない。30本はあるだろうか。近所におすそ分けしたら、喜ばれるのでは？

◆三面

『精神疾患の元新聞記者と発達障害の元新聞記者がお互いを取材してみた。』の帯に「脚本家の足立紳氏絶賛」とある。三月まで放送されていた、NHK連続テレビ小説「ブギウギ」の脚本家であるというので、私は毎朝欠かさずに観ていたので、自分のことのように嬉しさがこみあげてくる。『精神疾患の〜』については、読んだことがあるので、この本の魅力を多くの人に知ってもらいたい。『わたしは山頭火！?』についても、統合失調症の当事者、家族、医療関係者に関わらず、あらゆる立場の人々に読ん

同（有川）

お元気ですか？

だいぶ、暖かくなりましたが、我が家では、コタツと扇風機が同居しております。先日、友人と宅飲みをして、私は酔っぱらって暑くなって扇風機をつけ、友人はコタツに寝転がっていました。

さて、みんつど45号。ヤギの迫力満点でした。本当に悩み相談してくれるのでしょうか。Facebookでも触れたのですが、私は現在便秘と闘っていて、精神病より早く便秘を治したい状況です。きつと玄米をお薦めになるでしょうか、玄米と白米、両方常備しております。

アスパラ美味しそうですね、さすが北海道産。見事です。バター焼きして食べたいです。天地様の2冊の本、多くの方に読まれるといいですね。

これからどんどん暑くなると思います、私は今年も扇風機でがんばろうと思います。

去年もエアコンはほとんど使わず、電気代が上がらずにすみました。扇風機様です。天地様もガリガリ君以外の方法をお考えになって下さい（笑）。

みんつど46号を送っていた皆さま、ありがとうございます。2面のお話ですが、僕も自分がヒアリング調査をしたり、学生達に調査させているので、今回のお話は、身につまされました。調査先との信頼関係は大事ですよ。 （千葉大 学園芸学部教授・吉田行郷）

新聞社での天地さまの新聞記者時代の人間関係や体験の一端が知れて興味深かったです。中年期に入り、人生を振り返ると若かりし頃の失敗があれこれ思い浮かぶというのも同感です。その経験の土台の上に今があり、病気になるって得た物もたくさんあると思います。

また、カナダで個展を開く女性の話にも引き込まれました。なんのつてもなく行ったことのない海外で個展を開こうなんてすごく勇氣がありますね。その後がとても気になります。これからの『みんつど』の展開が楽しみです。いつもありがとうございます。（ラ

グーナ出版編集部・星礼菜）

（ラグーナ出版編集部・深水）

◆46号1面

個展を開きたいということは、芸術活動をしている人なら、誰もが夢見ることだろうと思う。

その夢を、最初に海外で実現させようと思っ立った池見陽子氏の情熱と行動力に感心する。ハードルが高いほど、それに挑戦する気概は強くなるものかもしれない。一面の写真には、リュックを背負って、闊歩している池見氏の姿がある。この写真だけでは、その熱

量は伝わってこないが、内心はキラキラとした希望に満ちているのだろうと想像する。どんな体験でも、初めての時は未知の世界に飛び込むようで、心躍るような武者震いがあるものだ。次回、カナダ個展の実現の詳細について、何が書かれるか、楽しみである。

（※紙面編集の都合上、一部割愛、編集しております。ご了承ください）

感想などメールは、tenchi2020@outlook.jpまでお願いします。



みんつど 第47号

鹿児島市・ラグーナ出版編集部